

葛西海浜公園西浜干潟調査 平成4年5月30日 亀田泰武

5月4日昼前に風景写真撮影で海浜公園に出かけ、岸近くで潮干刈りをしていた男子のバケツにバカ貝のような小さな貝が少しあり、その近くの親子連れのバケツを見せてもらったところ多数のシオフキかバカガイと4個のハマグリがあり、これまで貝類が殆どいなかったのが驚き、次の大潮で調査することにした。5月4日は干潮が12:50の17cmであった。



親子連れのバケツ 5月4日

5月30日月曜は干潮が10:54の18cmで、10時頃から浜に降りた。

調査は干潟の縦横20cmの区画のなかをシャベルで掘り返して貝類を探すもの。岸近くから始めた。、最初の場所では1cm程度の小さいシオフキが一つだけ。少し沖に行った場所で



調査は約20cm角をシャベルで掘って貝などを探した 2回目の時に出てきたハマグリ

は3cmくらいのハマグリが一つだけ。でも食べることのできるハマグリがいたのは驚きであった。だんだん沖に向かったが、貝は全くいなかったり、1~3cm程度の多分シオフキが一つとか少なかった。沖近くで1cm程度のアサリがいた。アサリはこの一つだけ。

ハマグリはところどころで取れ、計6個で最大が4.8cm、次が3.9cm、小さいものでも3cmと他の貝よりもずっと大きかった。

沖近くでマテガイ取りと潮干刈りをしていた家族のバケツをみせてもらったところ、けっこう大きなマテガイ2個とハマグリ1個。昔はけっこうマテガイ取りの人がいたが最近は見ることなく、少し復活したのだろうか。帰りすがら別なバケツを見せてもらったところハマグリ1個、シオフキらしい貝2個であった。



5/30に取れたハマグリ

以上からハマグリは1~2㎡に一つ程度生息していると考えられる。2~3年前に少数が着底に成功し、コロナ自粛で潮干刈りの人が少なく成長したものであろう。ただ、ハマグリのように殻が厚く、潮に流されにくいと思われるホンビノスガイが見られないのが不思議である。

ハマグリの大きさから、小さいのがないので毎年着底しているとは考えにくく、着底はたまたまであったように考えられる。新たな着底が見込まれないので、潮干刈りで取られて数は減っていくと考えられる。

類似のことが2017年5月の多摩川河口干潟の調査であった。以前の状況から貝類の生存を全く期待していなかったが、なんと8cmのハマグリやそれより大きなホンビノスガイなどハマグリとホンビノスガイが生息していた。ハマグリの方が数が多かった。

<http://www.21water.jp/k1/20170527kengaku/haneda1.html>

貝の大きさから、たまたま数年前に着底したものが、人に取られることが亡く大きくなったと考えられる。その日けっこうな人が潮干刈りに来ていて以前の調査時に殆ど人を見かけなかったことから、ハマグリが取れることが口コミで広がって人が来るようになったと考えられる。その後数が減っていったとのこと。



家族連れの獲物。マテガイ2、ハマグリ1、シオフキかバカガイ3



葛西海浜公園西浜 干潮の状況 5/30



葛西海浜公園西浜 5月連休の人出 5/4